

兵庫県議員 内藤 兵衛

県政NEWS

No.37 2022. 1



一日生涯

「一日生涯」は、内藤兵衛議員の座右の銘です。今日の一日を生涯と心得て、全力を出し切るという思いを込めています。

自民党兵庫議員団幹事長として 躍動する兵庫の実現へ共に挑む



齋藤知事と共に新しい兵庫の創生をめざします

このような中、令和4年度予算編成や行財政運営方針を見直す「県政改革方針（仮称）」の

課題は山積しています。現場の意見を踏まえたコロナ対策や地域経済再開への取り組み、さらには地方回帰への流れや、デジタル化、働き方改革など社会の変化に対応し、官民連携や民間活用など新しい発想、手法を最大限活用することが求められています。

躍動する兵庫の実現へと共に挑む覚悟です。

「地域の元気づくり」が「兵庫の元気づくり」。この根幹が変わることはありません。県内各地域の代表から成る自民党兵庫議員団の幹事長として一層リ

ーダーシップを発揮し、兵庫五国の魅力を磨く新しい地域創生を「県民ボトムアップ型県政」によって積極果敢に前へ進めます。

西脇多可においても変革期を迎えています。だからこそ、これまで以上に県と市町との連携強化に汗を流し、ふるさとの発展に向け全身全霊で取り組んでまいります。

策定作業も本格化し、新しい県政が具体的に動き出そうとしています。

守るべきものは守り、変えるべきものは必ず変えるといった新県政の姿勢が県民一人ひとりに伝わるよう、議会としてより緊張感をもって県当局とは異なる議論に臨んでいます。

「地域の元気づくり」が「兵庫の元気づくり」。この根幹が変わることはありません。県内各地域の代表から成る自民党兵庫議員団の幹事長として一層リ

ーダーシップを発揮し、兵庫五国の魅力を磨く新しい地域創生を「県民ボトムアップ型県政」によって積極果敢に前へ進めます。

西脇多可においても変革期を迎えています。だからこそ、これまで以上に県と市町との連携強化に汗を流し、ふるさとの発展に向け全身全霊で取り組んでまいります。

今年の干支は「寅」。寅年は春がきて新しい芽が「成長」する年と言われます。昨年の丑年は「変革、発展の前触れ」を表す年と言われ、まさにその通りになりました。「成長」する一年となるよう、勇猛果敢に走り続ける決意です。

変わらぬご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

策定作業も本格化し、新しい県政が具体的に動き出そうとしています。



新年度予算について政調会で幹事長としてあいさつ

齋藤新県政スタート 議会と車の両輪となって果敢に前進



8月2日、齋藤知事が県庁に初登庁。就任式などの後、自民党兵庫議員団の総会であいさつ



9月定例県議会で齋藤知事が所信表明。会期中には自民党兵庫議員団と活発な議論を行いました

8月1日に着任した齋藤元彦知事は、翌日・月曜日の2日、県庁に初登庁し、就任式では「全身全霊をかけて、兵庫県を前に進める」と決意表明しました。

このあと、自民党兵庫議員団の総会であいさつ。躍動する兵庫の実現にともに全力を尽くすことを確認しました。

齋藤知事はコロナ対策に積極的、機動的に対応するとともに、公約の実現にスピーディに対応するため早速、新県政推進室を設置しました。



地元の方から齋藤知事への寄贈を託された播州織のシャツを直接手渡しました

9月および12月と定例県議会が開催され、県議会と齋藤知事との本格的な論戦がスタートしました。9月県議会では、「私の使命は躍動する兵庫をつくりあげること。二元代表制の一翼を担う県議会の皆様とともに最大限の努力を払ってまいります」と齋藤知事が所信表明を行いました。



令和4年度予算編成に対しての申し入れ内容を自民党兵庫議員団幹事長として齋藤知事に説明しました

さらに、令和4年度予算編成に対し、自民党兵庫議員団として9月に重要政策提言、これを具体化・事業化し、予算化を求める申し入れを11月、齋藤知事に行いました。

今後とも是々非々で議論を進めてまいります。



宿泊先のエーデルささゆりで県庁とのオンライン会議

「ワーケーション知事室」多可西脇で初開催

県民ボトムアップ型県政を目指す齋藤元彦知事の公約である「ワーケーション知事室」が12月14、15日の一泊二日で多可町、西脇市など北播磨地域で初開催されました。エーデルささゆりで県庁とオンライン会議を行い、杉原紙の紙すき体験や地域住民らとざくばらんに意見交換などを行いました。後日の記者会見で感想を質問された齋藤知事は「播州織や山田錦の事業者さん、それぞれの分野でいろんな想いをもって独自のストーリーや切り口で発信して売り込んでいこうという思いを持っている方が多くおられ、私も発見になりました。地元の方々のホスピタリティー、受け入れの温かさに改めて感謝申し上げます」と語っていました。(写真:兵庫県提供)



北播磨地域の農業、商工業関係等の事業者と意見交換



杉原紙研究所を見学し、紙すき体験



杉原谷小学校の授業に飛び入り参加



古民家空間「kotonoha」を訪問



播州織工房館を視察

県議会行財政運営調査特別委員会の副委員長に

県は今年度、行財政運営の新たな方針を策定することにしていきます。このため、県議会では9月定例県議会で行財政運営調査特別委員会を設置しました。委員12人で構成し、私が副委員長を拝命いたしました。

委員会の審議ではコロナの影響で、より一層厳しい財政環境となることが見込まれることから、自民党兵庫議員団として財政フレームを堅実な数値に見直すことや、歳出削減策については、①大型投資事業の県民目線に立った再検討、②県単独投資事業予算は広大な面積に都市部と地方部の両方を抱える兵庫県の実態を正確に反映し、事業費総額のみで単純に比較するのではなく、面積や河川、道路の延長、そして県管理漁港数など、事業の内容を精査した上で、必要な予算の確保、③民間活力を

最大限活用し、県民ニーズに応えていくため、県営住宅の管理や県立公園の運営、地域整備事業や地域創生整備事業などは、コストの最小化を図りつつ、施設機能の効果が最大限に発揮されるよう、実施体制、手法等について聖域なき見直しを進めて、民間と協働することなどを要請しました。

さらに、ポストコロナ社会に合った組織を進めていくため、これまでの本庁5部体制にこだわらずに新しい政策を速やかに実行できる横断型の組織及び柔軟な発想や実行力ある職員、専門知識を有する外部人材の登用、実効性ある組織、人づくりを求めました。

12月16日には見直しの一次案である「県政改革方針（仮称）」が発表されました。これを叩き台に県民、議会、有識者らから意見を求め、その結果を反映させ、最終案を2月議会に上程、審議の上、策定されます。生活に直結する重要案件であり、是非、皆さまのご意見をお寄せください。



県政改革方針(仮称)〔行財政運営方針の見直し一次案〕発表

齋藤元彦知事が12月16日に発表した「県政改革方針（仮称）〔行財政運営方針の見直し一次案〕」は、基本方針として「躍動する兵庫の実現」「持続可能な行財政基盤の確立」とともに、各職場から自律的、多発的に業務の創意工夫や変革の提案がなされる「イノベーション型行財政運営の実現」を掲げています。

経済成長率を堅実に見込み 財政状況を分かりやすく

行革の前提となる財政収支見通しについては、経済成長率の見込みを、内閣府が示している堅実な試算「ベースラインケース」に変更しました。

これは、コロナ禍で中長期的な税収の見通し、経済動向の見通しも含めて、不透明な面があることから、堅実に見込んで、県民に今の本県の置かれている財政状況を分かりやすく伝えていくことにしたものです。

これによって令和3年度から令和10年度までの収支不足の総額が約100億円増えて約440億円になります。このため、事務事業や投資事業の見直しを行い、令和10年度までの総額で約1,300億円の効果額を創出することをめざしています。

民間活力で効果的に事業展開・投資事業は 道路など安全・安心に直結する事業に重点

事務事業の見直しでは、「スクラップ・アンド・ビルド」の「ビルド」を重視することにし、民間のアイデアやノウハウ等を活用し、より効果的・効率的な事業展開を図ります。社会の変化で必要性が低下した事業は、廃止または縮減する方針です。

投資事業については、令和10年度まで一定の上限を設けて、事業を調整し、その中で、県民の安全・安心に直結する身近な道路や河川の日常的な維持修繕を重点的に振り替えて実施する仕組みを設定することとしています。

見直しによる効果額はコロナからの創造的復興をめざした新事業への反映を検討します。